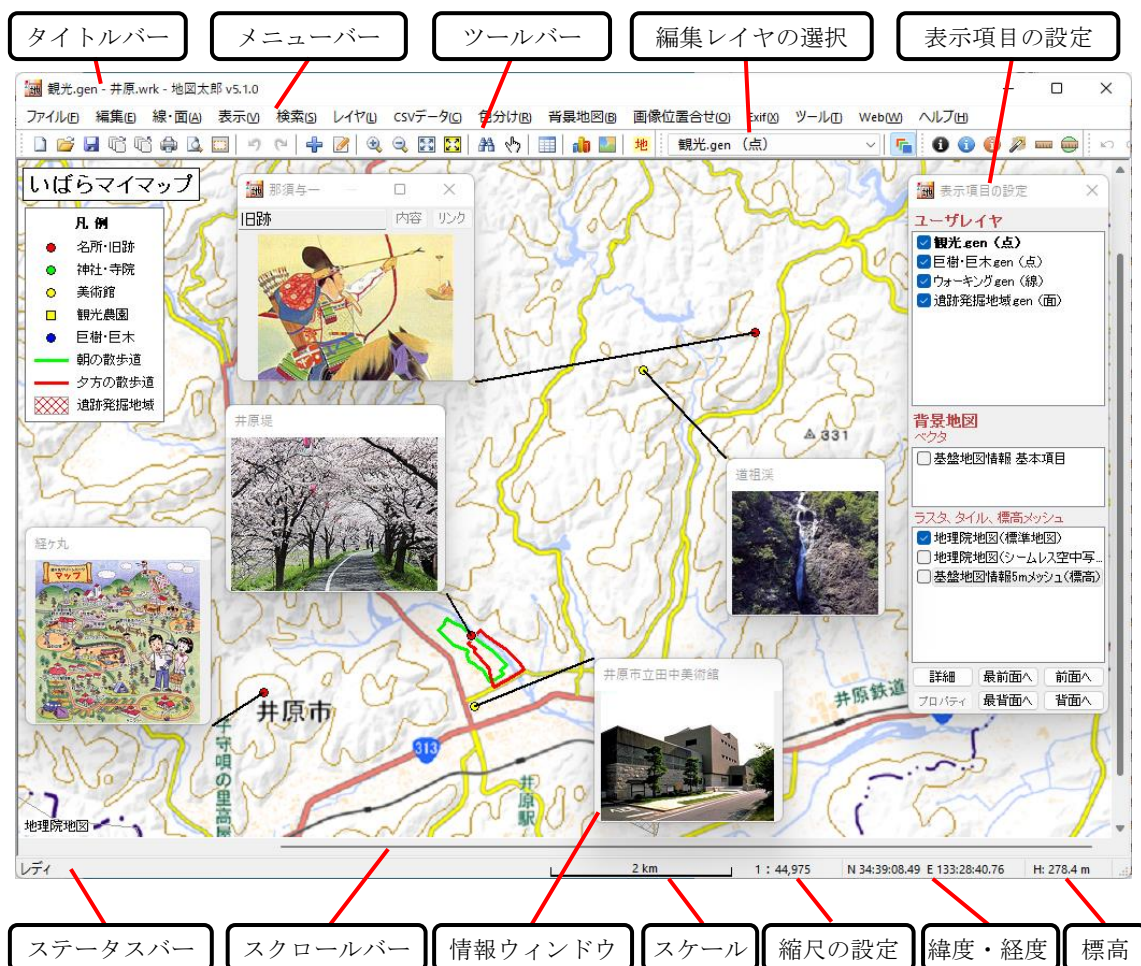


2. 画面と基本的な操作方法

2. 1 画面

●「地図太郎」「地図太郎 Shape 版」画面



タイトルバーには読み込んだユーザレイヤのフォルダパスがデフォルトで表示されます。
「環境設定」にてファイル名のみの表示に変更できます。

2. 2 基本的な操作・用語

画面の移動

通常は、左ボタンでドラッグかダブルクリックするだけです。他の機能を使用中の時は、[スペース]キーを押すと移動モードになります。

拡大・縮小

マウスホイールを上下に回すことで、カーソルの位置を中心に、拡大縮小ができます。（これは他の機能を使用中の時でも可能です。）また[Shift]キーを押したままで、マウスの左ボタンをクリックすると拡大と範囲指定、マウスの右クリックをすると縮小表示します。

全体表示

- ①メニューバーの【表示】→【全体表示】で、すべてのデータ（背景地図＋ユーザレイヤ）が含まれる範囲が表示されます。
「地理院地図」が含まれる場合は、日本全域が表示されます。
- ②メニューバーの【表示】→【編集レイヤの全体表示】で、現在、編集レイヤに選択されているユーザレイヤのすべてのデータが含まれる範囲を表示します。

● ユーザレイヤ

ユーザがいろいろな情報（データ）を点・線・面に分けて登録作成するレイヤ（layer：層）になった各々のファイルです。GISではこのように層にわけてデータを作成、保存します。

● 背景地図

ユーザが地図上に情報（データ）を登録するために、自分で用意する地図です。インターネットで公開されている地図をダウンロードや購入をして背景地図として読み込みます。「地理院地図」を利用すると、簡単に背景地図を表示できます。

● ワークファイル

作業中の画面の状態（ユーザレイヤや背景地図）をそのまま保存しておくファイルです。

作業を開始するたびに、「必要な背景地図の読み込み→保存したユーザデータの読み込み→表示する項目の設定を行う」を毎回行うことは、面倒なことです。ワークファイルを開くことで、保存した時と同じ状態でスタートすることができます。

●地図太郎で扱う図法と座標系

① Web メルカトル図法

背景地図で表示する「地理院地図」がこの図法になります。

下記のように定義されています。

「Web メルカトル投影とは WGS84/GRS80 楕円体の長半径（赤道半径）を半径とした真球をメルカトル図法で投影したものを言う。Web メルカトル投影をすることにより、北緯約 85.05 度～南緯約 85.05 度、西経 180 度～東経 180 度の範囲を 1 つの正方形で表すことができる。この正方形を縦横 2 分割、更にその分割されてできた正方形を縦横 2 分割と続けていってタイル状にしたものが用意するタイルデータとなる。」

（引用：佐藤 壮紀、神田 洋史、北村京子 小菅 豊 国土地理院 平成 24 年度「地図表現が変更できる電子国土 Web システムの開発」）

② 経緯度座標系

経度、緯度で位置を表したものです。

地図太郎はソフト内では世界測地系の経緯度データで扱います。

③ 平面直角座標系

平面上に位置・方向・距離等を投影した測量では、測量範囲を狭くすれば、かなり正確に表すことができます。国が全国に 19 の系を設定しており、公共測量等に使用されています。

国土地理院のホームページでは次の様に説明しています。

「日本で用いられている平面直角座標は、ガウス・クリューゲルの等角投影法によるもので、座標原点を通る子午線は等長に、図形は等角の相似形に投影されます。しかし、距離については、原点から東西に離れるに従って平面距離が増大していくため、投影距離の誤差を相対的に 1/10,000 以内に収めるよう座標原点に縮尺係数 (0.9999) を与え、かつ、座標原点より東西 130km 以内を適用範囲とした座標系を設けています。」






（引用：国土地理院 ホームページ 「日本の測地系 7. 平面直角座標系」平成 27 年 4 月 7 日）




※図法と座標系に関しては国土地理院のホームページ等を参照されるか、専門書をお読みください。

2. 3 メニュー一覧




ファイル(F)


上・・・上巻 下・・・下巻

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
ワークファイルを開く		既存のワークファイルを開きます。	下 61
ワークファイルを上書き保存		ワークファイルの保存や上書き保存をします。	下 61
ワークファイルを名前を付けて保存		ワークファイルは、作業中の画面の状態（ユーザレイヤや背景地図）をそのまま保存しておくファイルです。	
ユーザレイヤの新規作成 (N)		新しいユーザレイヤ（点・線・面・注記）を作成します。	上 147
		Shape 版では経緯度のシェープファイルのレイヤを作成できません。	上 127
ユーザレイヤを開く (O)		編集レイヤとしてシェープファイルを開きます。	上 107
		既存のユーザレイヤを編集レイヤとして開きます。	下 58
編集レイヤを閉じる (C)		現在編集対象になっているユーザレイヤを閉じます。	下 58
編集レイヤを上書き保存 (S)		現在編集対象になっているユーザレイヤを元のファイルに上書き保存します。	上 129 下 57
編集レイヤを名前を付けて保存 (A)		現在編集対象になっているユーザレイヤの内容を別の名前をつけて新しいファイルに保存します。地図太郎バイナリデータ形式 (.czt) も選べます。Generate 形式ファイル (.gen) に比べてファイルサイズが小さく、読み込みも高速になります。	上 129 下 57
他形式を編集レイヤに読み込み		他形式のファイルをユーザレイヤに読み込みます。 ・シェープファイル（経緯度座標、平面直角座標、UTM 座標） ・DXF ファイル（平面直角座標） ・KML・KMZ ファイル ・GeoJSON ファイル ・GPX ファイル ・CSV ファイル（経緯度座標、平面直角座標） ・国勢調査、事業所・企業統計調査データ ・SIMA ファイル（平面直角座標の画地データのみ） ・法務省 地図 XML ファイル	下 63
他形式で編集レイヤを書き出し		ユーザレイヤを他形式のファイルで保存します。 ・シェープファイル（経緯度座標、平面直角座標） ・KML・KMZ ファイル ・GeoJSON ファイル ・GPX ファイル ・CSV ファイル（点データの経緯度座標、平面直角座標） ・地図太郎用背景ラインファイル	下 86

環境設定		<p>地図太郎の動作を設定します。次の設定が行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「編集レイヤの選択」ツールバーの幅（ピクセル単位） ・画面の最大縮尺（1/1 以上） ・補間点、端点の表示色と記号を変更する ・タイトルバーにファイルのパス名を表示する ・表示項目の設定ウィンドウで編集レイヤを切り替える ・編集レイヤの切り替えでファイルの保存を確認する ・編集レイヤの切り替えで選択解除する ・[選択]、[エリアで選択]、[属性情報の確認・変更]、[情報ウィンドウの表示] で、選択対象レイヤを指定する ・Ctrl キーを押しながら矩形で選択した場合、選択解除しない ・[移動]、[拡大・縮小]、[回転] の実行後、選択解除しない ・[拡大・縮小]、[回転] で連続実行を行う ・メインウィンドウと連動して子ウィンドウを移動する ・マウスホイールのズーム方向を反転する ・「色の設定」ダイアログを六角形パレットに変更する ・ワークファイルから環境設定を取得する ・Web Mercator 投影法で表示する ・地図太郎とワークファイル（拡張子 .wrk）を関連付ける 	下 99
印刷範囲		印刷範囲の設定や解除、表示・非表示を行います。	下 51
印刷プレビュー (V)		印刷する内容を画面に表示します。	
印刷 (P)		現在の画面、または設定した印刷範囲で印刷します。また、インデックス図の作成をします。	下 46
印刷イメージの作成		縮尺と解像度を指定して印刷イメージの画像ファイルを作成します。	下 50
画面イメージの作成		画面イメージの画像ファイルを作成します。 画面イメージの周囲にはスケールバー、図郭線、四隅経緯度を付加することができます。	下 49
最近使用したファイルの一覧		最近使用したユーザレイヤファイルとワークファイルが記録されています。指定して開くことができます。	—
終了 (X)		地図太郎を終了します。	—

編集 (E)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
属性情報の確認・変更		入力した属性情報を確認、変更します。	上 191
属性情報の一括変更		選択したデータの属性情報を一括して変更します。	上 192
元に戻す		直前に行った編集（データの追加、削除、移動、線・面の形状変更）を元に戻します。操作名が併記されます。	上 122
やり直し		「元に戻す」で取り消した図形編集の操作を、もう一度やり直します。操作名が併記されます。	上 163
新規レイヤにコピー		編集レイヤの選択されたデータを新規レイヤにコピーします。	下 20
クリップボードにコピー		編集レイヤの選択されたデータをクリップボードにコピーします。	下 18
貼り付け		クリップボードにコピーしたデータを編集レイヤに貼り付けます。	下 18

追加		編集レイヤにデータを追加します。	上 121 上 162
追加（直角）		編集レイヤに、補間点での角度が直角となる線・面データを追加します。	上 156
追加（矩形）		編集レイヤに、矩形の線・面データを追加します。	上 157
追加（等距離円）		編集レイヤ（線・面）に等距離円データを追加します。	上 158
追加（座標値入力）		編集レイヤ（点）に座標値入力でデータを追加します。	上 160
削除		編集レイヤの点・線・面データを削除します。	上 163
移動・コピー		編集レイヤの点・線・面データを移動またはコピーします。	上 164
形状変更		編集レイヤの線・面データ形状を変更します。 複数の図形の接する場所の端点・補間点を簡単に選択して形状変更ができます。また、補間点を一括で削除できます。	上 165
拡大・縮小		編集レイヤの線・面データを拡大または縮小します。	上 186
回転		編集レイヤの点・線・面・注記データを回転します。	上 187
1 点で位置合せ（レイヤ単位）		元の位置と移動先の位置を指定して点・線・面データを移動します。同時に複数のレイヤを実行できます。	上 188
2 点で位置合せ（レイヤ単位）		元の位置と移動先の位置を 2 か所指定して点・線・面データを移動・回転・拡大・縮小します。同時に複数のレイヤを実行できます。	上 189




線・面(A)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
線の分割		編集レイヤの線を分割します。	上 171
線の反転		編集レイヤの線を反転します。	上 172
線の結合		編集レイヤの線を結合します。	上 173
線の延長・トリム		編集レイヤの線を指定した線まで延長、または短縮します。	上 175
面の形状変更		編集レイヤの面データの形状を変更します。	上 169
面の 2 分割		編集レイヤの面データを 2 つに分割します。	上 177
面の結合		編集レイヤの面データを結合します。	上 178
面のマルチパート化		編集レイヤの面データをマルチパート化します。	上 180
面の中抜き（ドーナツ化）		編集レイヤの面データを中抜きします。	上 182
面の中抜き・マルチパート解除		編集レイヤの面データの中抜きやマルチパートを解除します。	上 184
座標値リスト表示		線・面データの座標値をリスト形式で表示します。 座標値を変更することもできます。	上 170

表示 (V)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
表示項目の設定		ユーザレイヤや背景地図の表示・非表示の切り替え、前面・背面の設定を行います。また詳細ボタンにより表示項目や地図画像の色調を指定することができます。	上 202
海岸線・都府県界		海岸線や都府県の境界線、都道府県名の表示と非表示を切り替えます。色や線幅の変更もできます。	下 101
標準地域メッシュ		1 次メッシュ、2 次メッシュ、3 次メッシュのグリッドとメッシュコード、1/50000 地形図の図郭の表示と非表示を切り替えます。色や線幅の変更もできます。	下 102
経緯線		経緯線の表示と非表示を切り替えます。表示間隔、表示範囲、色、線幅の変更もできます。	下 103
拡大／範囲指定		左クリックまたはドラッグで画面を拡大します。（左クリック→拡大、ドラッグ→囲まれた範囲を拡大） また他のメニューを選択している場合、 [Shift] キー+左クリックで拡大、 [Shift] キー+ドラッグで範囲指定ができます。	上 197
縮小		左クリックで画面を縮小します。 また他のメニューを選択している場合、 [Shift] キー+右クリックで縮小ができます。	上 197
編集レイヤの全体表示		選択された編集レイヤの全体を表示します。	上 199
全体表示		全てのデータ（ユーザレイヤと背景地図）を含む全体を表示します。	上 199
表示画面移動 （座標値指定）		表示範囲の中心を指定の緯度経度に移動します。	下 104
前の表示画面に戻す		表示範囲を 1 つ前に表示していた範囲に戻します。	下 104
次の表示画面に進む		「前の表示画面に戻す」で戻した表示範囲を 1 つ先に進めます。	下 104
縮尺の設定		指定した縮尺で表示します。画面中央部東西方向の縮尺となります。ステータスバーの縮尺文字をクリックして、縮尺を設定することもできます。	上 200
情報ツールチップの設定		ツールチップで表示する属性情報や結合 CSV (Shape 版は DBF) の項目を設定します。マウスカーソルをユーザデータの上に移動すると、属性情報をツールチップに表示します。	上 214
ツールバー (T)		ツールバーの表示と非表示を切り替えます。	下 105
編集レイヤ選択バー (L)		編集レイヤ選択バーの表示と非表示を切り替えます。	下 105
画像位置合せバー (O)		画像位置合せバーの表示と非表示を切り替えます。	下 105
ステータスバー (S)		ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。 ※標高メッシュを読み込んだ場合、マウスカーソル位置の標高値を表示します。	下 105
		縮尺の表示や指定を行うことができます。あらかじめ [表示] → [縮尺の設定] で使用する画面の解像度（幅）と画面サイズ（幅）を入力して DPI を設定しておきます。	上 200

検索 (S)


メニューバー	ツールバー	操作内容 (ステータスバーに表示されます)	参照頁
属性情報のリスト表示		編集レイヤの属性情報をリスト形式で表示します。リスト上の情報を選択すると、地図上の点・線・面の図形がマゼンタ色で表示されます。	上 215
属性情報のカード表示		編集レイヤの属性情報をカード形式で表示します。カード上で情報を選択すると、地図上の点・線・面の図形がマゼンタ色で表示されます。	上 216
選択		クリックまたはドラッグにより点・線・面データを選択します。「属性情報のリスト」が表示され、該当のデータが選択表示されます。[Ctrl] キーを押しながらクリックまたはドラッグすることで選択の追加・解除ができます。	上 112 下 7
エリアで選択		エリアで囲んで、そのエリアに含まれるデータを選択します。エリアの入力は右クリックで終了します。	下 8
すべて選択		編集レイヤのすべてのデータを選択します。	下 7
選択反転		選択データを非選択に、非選択データを選択状態にします。	下 9
選択解除		データの選択を解除します。	上 112
ロック		図形の編集や選択をできないようにします。	上 196
ロック解除 (全レイヤ)		全てのレイヤのロックを解除します。	上 196
中心からの距離で検索		中心からの半径 (m, Km) を指定することにより、その範囲に含まれる点・線・面データを検索します。	下 10
		[Ctrl] キー押ししながら中心を設定すると、複数の範囲を検索することができます。	下 11
文字列検索		属性情報を対象にして文字列検索します。注記データも検索できます。	下 12
文字列検索 (結合 CSV)		結合 CSV データを対象にして文字列検索します。	下 13
数値検索		属性情報の内容が数値とみなせる場合、数値で検索します。	下 14
数値検索 (結合 CSV)		結合 CSV データ対象にして、内容が数値とみなせる場合、数値で検索します。	下 15
カレンダー検索		登録日、更新日からデータを検索します。検索された地図上の点・線・面がマゼンタ色に変わり、属性情報がリスト表示されます。(西暦 1 年から 10,000 年まで対応)	下 16
選択・検索した属性情報のリスト表示		編集レイヤで選択しているデータの属性情報をリスト形式で表示します。	下 17
選択・検索した属性情報の保存		編集レイヤで選択しているデータの属性情報をファイルに保存します。	下 17

レイヤ (L)

メニューバー	ツールバー	操作内容 (ステータスバーに表示されます)	
グループレイヤの設定		レイヤのグループ化ができます。	上 211
スナップレイヤの選択		スナップするレイヤを選択します。	上 195
読み取り専用レイヤの設定		ユーザレイヤを読み取り専用を設定します。	上 223
属性別にレイヤ振り分け		編集レイヤの図形データを属性に応じて別レイヤ (新規または既存のレイヤ) に振り分けます。	下 106
選択データを別レイヤに移動		編集レイヤの選択データを新規レイヤまたは既存のレイヤに移動します。	下 108

面レイヤを線レイヤに変換		面レイヤを線レイヤに変換します。	下 109
面レイヤを点レイヤに変換		面レイヤを点レイヤに変換します。	下 109



CSV データ

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
結合		外部の CSV データ（カンマ区切りテキスト）を読み込み、参照および色分け等の表示ができるようにします。	下 21
結合解除		結合した CSV データを解除します。	—
結合 CSV データのリスト表示		結合した CSV データをリスト形式で表示します。	下 23
結合 CSV データのカード表示		結合した CSV データをカード形式で表示します。	下 23
結合 CSV の一括変更		選択したデータと結合している CSV データを一括して変更します。	下 26
結合 CSV を属性情報へ転記		結合した CSV データを地図太郎の属性情報に転記します。	下 27
結合 CSV を保存（選択・検索データ）		選択・検索した CSV データを新しい CSV 形式のファイルで保存します。	下 28
結合 CSV を保存（全データ）		編集レイヤと結合している CSV データをファイルに保存します。	下 29


DBF データ（Shape 版のみ）

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
DBF のリスト表示		編集レイヤの DBF データをリスト形式で表示します。	上 107
DBF のカード表示		編集レイヤの DBF データをカード形式で表示します。	上 110
DBF のフィールド演算（数値）		DBF データのフィールド値に対して演算を行います。文字列も数値として扱います。	上 130
DBF のフィールド演算（文字列）		DBF データのフィールド値に対して演算を行います。数値も文字列として扱います。	上 135
DBF の一括変更		編集レイヤの、選択された DBF データの内容を、一括して変更します。	上 113
DBF を属性情報へ転記		編集レイヤの DBF データを地図太郎の属性情報へ転記します	上 119
属性情報を DBF へ転記		編集レイヤの地図太郎の属性情報を DBF データへ転記します	上 120
DBF のフィールド定義		DBF データのフィールドの追加、削除、順序、内容の変更ができます。	上 126
CSV ファイル書き出し		選択しているデータだけを CSV ファイルに書き出します。	上 109
CSV ファイルを結合		CSV データを読み込み、DBF データと結合します。	上 139
CSV ファイルの結合解除		CSV ファイルを結合で追加したフィールドを DBF データから削除します。	上 145







色分け(R)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
グラフ表示		属性情報や結合した CSV データの情報をもとに、グラフ（円、正方形、棒）表示します。DBF の値でも表示します。	下 30
グラフ表示解除		グラフ表示をやめます。	—
色分け表示（クラス）		属性情報や結合した CSV データをもとに、点・線・面データを分類して色分け表示します。（数値データをもとに段階区分表示します）DBF の値でも表示します。	下 33
		「色分け設定の読込」と「色分け設定の保存」ができます。	下 43
色分け表示（個別値）		属性情報や結合した CSV データをもとに、点・線・面データを分類（最大分類数は 1000）して色分け表示します。（文字やコードの個別値をもとに分類表示します）DBF の値でも表示します。 ・「色分け設定の読込」と「色分け設定の保存」ができます。	下 37
色分け表示解除		色分け表示をやめます。	—
色分けを属性情報へ転記		「色分け表示」で設定した表示色や記号・線種・網掛けを属性情報へ転記します。	下 44


背景地図(B)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
タイル地図を開く		タイル地図を表示します。（保存も可能です。） 地理院地図、1/50 万地図画像、OpenStreetMap 今昔マップ on the web、ローカルのタイル地図	上 39
タイル地図を閉じる		「タイル地図を開く」で開いた地図を閉じます。	上 59
ベクタ地図を開く		ベクタ地図を背景に表示します。 編集や検索の対象にはなりません。 国土地理院 基盤地図情報 DM データファイル（デジタルマッピング） シェープファイル、AutoCAD DXF ファイル 地図太郎用背景ラインファイル	上 60
ベクタ地図を閉じる		「ベクタ地図を開く」で開いた地図を閉じます。	上 74
ラスタ地図を開く		地図画像を開きます。 国土地理院 地理院地図（手動で読み込み） 国土地理院 2 万 5 千分 1 ウォッチズ Google Earth KML ファイル（イメージ オーバーレイ） 地図・航空写真画像等	上 75
ラスタ地図を閉じる		「ラスタ地図を開く」で開いた地図を閉じます。	上 84
標高メッシュを開く		国土地理院などの各種標高メッシュデータを開きます。 国土地理院 基盤地図情報 数値標高モデル 航空レーザ LEM 形式 0.5m メッシュ GeoTIFF ファイル（標高データ） ASTER 全球 3 次元地形データ（ASTER GDEM）	上 85
標高メッシュを閉じる		「標高メッシュを開く」で開いた標高データを閉じます。	上 96
背景地図を名前を付けて保存		国土地理院の基盤地図情報、標高メッシュを地図太郎専用のファイルとしてデータを保存します	上 97



画像位置合せ (0)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
元に戻す		直前に行った画像の位置合せ（移動・変形、拡大・縮小、回転、1点で位置合せ、2点で位置合せ）を元に戻します。	—
やり直し		「元に戻す」で取り消した画像位置合せの操作を、もう一度やり直します。	—
移動・変形		画像を移動・変形します。	上 103
回転		画像を回転します。	上 104
拡大・縮小		画像を拡大・縮小します。 幅または高さを固定して拡大・縮小することができます。	上 103
1点で位置合せ	1点	元の位置と移動先の位置を指定して画像を移動します。	—
2点で位置合せ	2点	元の位置と移動先の位置を2か所指定して画像を移動・回転・拡大・縮小します。	上 98
設定の保存		画像の4隅位置座標をファイルに保存します。	上 105

Exif (X)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
位置情報付き JPEG ファイルを点データとして開く		緯度経度情報を持った JPEG ファイルを読み込み、点データを作成します。Exif ファイルから GPS 情報を取得し、緯度経度情報をもとに点データを作成します。また Exif ファイルを地図上にドラッグ&ドロップするだけで、GPS 情報の位置に点データを作成することもできます。	下 110
位置を変更した位置情報付き JPEG ファイルを保存		位置情報付き JPEG ファイルの緯度経度情報を変更して保存します	下 112
位置情報付き JPEG ファイルの新規作成		点データの位置と属性情報の画像ファイルから位置情報付き JPEG ファイルを新規に作成します。	下 113
位置情報付き JPEG ファイルの編集		位置情報付き JPEG ファイルの Exif 情報を編集して保存します。	下 114
GPS ナビゲーション開始		NMEA-0183 に対応した GPS 受信機から現在位置を取得して表示します。	下 116
GPS ナビゲーション終了		GPS ナビゲーションを終了します。	下 117

ツール(T)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
情報ウィンドウの表示設定		情報ウィンドウと距離・面積・位置ウィンドウの引き出し線や表示形式、大きさ等の設定を行います。	下 118
情報ウィンドウの表示		クリックしたデータの属性情報（タイトル、キーワード、内容、写真、リンク先）を表示します。表示 1～表示 5 の 5 種類の表示タイプがあります。	上 218
距離・面積・位置ウィンドウの表示		距離・面積・位置ウィンドウを表示します。点データの緯度経度表示もします。	上 221
地形断面図の表示		地形断面図を表示します。	下 120
情報ウィンドウを全て開く		編集レイヤの情報ウィンドウを全て開きます。（地図上に貼り付けた写真等を一気に表示するのに便利です）[情報ウィンドウの表示設定] で設定した大きさと表示形式で表示されます。	上 220
情報ウィンドウ／リストを全て閉じる		情報ウィンドウやリストを一度に閉じます。	上 221
情報ウィンドウでデータを選択		マウスドラッグで情報ウィンドウを囲むと、情報ウィンドウとリンクしているデータを選択できます。選択した結果は、属性情報のリストや結合した CSV データのリストに反映されます。	下 122
リンクファイルを開く		クリックしたデータのリンクファイルを開きます。 リンクファイルとは、属性情報のリンクファイル欄に記述してある、URL、フォルダ、ファイルなどのことです。	下 123
タイトル作成・表示		タイトルを作成します。タイトル枠の表示の設定やタイトルそのものの表示・非表示を切り替えます。	下 124
凡例作成・表示		凡例を作成します。凡例のテキストファイルへの保存、読み込み、表示と非表示を切り替えます。	下 125
方位記号作成		方位記号を作成します。	下 127
スケールバー作成		スケールバーを作成します。スケールバーの左右をドラッグするとスケールバーのサイズを変更することができます。スケールバーの上で右クリックするとポップアップメニューが表示され、「変更」「閉じる」を実行できます。	下 128
リンクメニュー作成・表示		リンクメニューを作成します。また、リンクメニューの表示と非表示を切り替えます。リンクメニューの形式にはテキストとブッシュボタンの 2 種類があります。	下 129
計測の設定		距離と面積の算出方法を設定します。	下 132
距離計測		画面上で距離計測をします。計測途中の距離を表示します。	下 133
面積計測		画面上で面積計測をします。計測途中の面積を表示します。	下 134
バッファ		点・線・面データの周囲に、指定した距離のバッファを作成します。	下 135
クリップ		点・線・面データを、他レイヤの面データを使用してクリップします。	下 136
ディゾルブ		接している面データを 1 つに結合します。	下 137
測地系変換		シェープファイルの座標値を、日本測地系から世界測地系（JGD2011）に変換します。経緯度座標系（度単位）と平面直角座標系に対応しています。完全な変換を保証できませんので、地図太郎での読み込みに限って使用して下さい。	下 138
文字コード変換		シェープファイルの文字コードを UTF-8 から Shift_JIS に変換します。	下 139

Web (W)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
背景地図や各種データのダウンロード		背景地図に利用できる地図データや空中写真画像、国勢調査のデータおよびアドレスマッチング等の関連サイトを開きます。	—
Web 地図サービス		地図太郎上でクリックした位置の Web 地図サービスを開きます。	下 144
ダウンロードデータの 使用上の注意		公開されているデータには著作権が存在します。公開組織の利用規定、利用手続き等に注意して下さい。	—
測量成果の複製・使用 に必要な手続き（国土 地理院）		測量成果の複製・使用についての国土地理院ホームページのリンクです。複製・使用場合必要な手続きをして下さい。	—
プロキシサーバーの設 定		インターネットの接続に使用するプロキシサーバーを設定します。通常は設定する必要がありません。	—

ヘルプ (H)

メニューバー	ツールバー	操作内容（ステータスバーに表示されます）	参照頁
簡易マニュアル		HTML 形式の簡易マニュアルです。メニューごとに説明してあります。	—
ユーザーズガイド		操作の詳細について説明してあります。見るにはインターネットに接続されている必要があります。	—
著作権と制限事項		地図太郎や地図太郎で使用している各データの著作権、制限事項について説明してあります。	—
バージョン情報		このソフトウェアのバージョン情報を表示します。（弊社ホームページへのリンクボタンもあります）	—